

序文

日本数学会刊行シリーズ *Advanced Studies in Pure Mathematics* の一つとして出版されるこの巻は 2004 年 9 月 13 日から 18 日まで北海道大学（札幌）で開催された日仏特異点シンポジウム“幾何学とトポロジーにおける特異点”の報告集です。これは同標題の第三回目のシンポジウムです：第一回の日仏特異点シンポジウムは 1998 年 7 月 6 日から 10 日まで北海道大学で開催され、その報告集はこのシリーズ *Advanced Studies in Pure Mathematics* の第 29 巻として 2000 年に出版されました。また第二回は 2002 年 9 月 9 日から 13 日まで CIRM（マルセイユ-リュミニ）で開催され、その報告集はフランス数学会刊行シリーズ *Séminaires et Congrès* の第 10 巻として 2005 年に出版されています。

特異点理論における日仏の協力関係は古く、それは 1970 年代の廣中平祐のフランス滞在を契機に具体化されました。日本学術振興会と CNRS の協力事業および PICS(科学協力国際プログラム)により相互派遣、研究交流が可能となり、また日仏両国におけるポストドックに財政援助が与えられました。

北海道大学における今回のシンポジウムは日本学術振興会と CNRS の日仏協力事業“日仏セミナー”の一つとして組織されました。主に日仏両国、またドイツ、イラン、メキシコ、ロシア、トルコ、アメリカ合衆国、ベトナムなどの諸国より計 60 名の参加者がありました。講演は 23 あり、主として特性類、留数、階層化、曲線および曲面の特異点、附値、特異点の解消、トーリック多様体などの主題について行われました。

フランス大使館からは、駐日大使 Bernard de Montferrand 氏に開会式に御挨拶をして頂く光栄に浴しました。また科学技術顧問 Michel Israël 氏が参加して下さったことにも感謝いたします。フランス大使館をはじめ、このシンポジウムの実現に援助して下さった方々、特に日本学術振興会、CNRS に感謝いたします。東京の CNRS 事務局にも支援をして頂きました。最後になりましたが、有能、意欲的かつ懇切な尽力によりこのシンポジウムを真に成功させて下さった北海道大学 COE 事務員の方々にお礼申し上げます。

Jean-Paul Brasselet, 諏訪 立雄